

安全対策講習会

プラントからの安全運行および

荷積みから荷卸しまでの安全対策



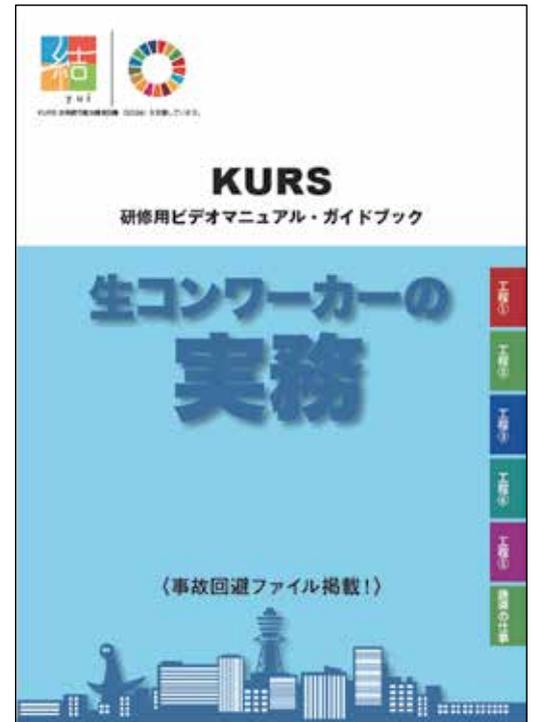
KURS（近畿生コン関連協議会）
KLWS（関西労供労組協議会）

もくじ

はじめに	2	5.工程④洗浄	42
1.なぜ事故は起きるか	4	5-1 現場での洗浄	42
1-1 ハイソリッヒの法則	4	5-2 残水処理での洗浄	44
1-2 事故の発生原因（精神的・肉体的）	5	発生した事故例	45、46
2.工程①製造	6	6.工程⑤帰着後	47
3.工程②運搬	7	6-1 残水処理とうがい	47
3-1 心がまえと注意事項	7	6-2 最終の洗浄と洗車	48
3-2 出社から始業点検まで	10	6-3 終業作業	52
3-3 生コンの積み込み	15	発生した事故例	49-51、53
3-4 安全な道路走行	21	7.交通事故発生時の現場処理	54
発生した事故例	18、19	7-1 負傷者の救護	54
安全取組	20、32-35	7-2 二次災害の防止	55
4.工程③荷卸し	36	7-3 警察への報告	56
4-1 現場での注意事項	36	7-4 会社への連絡	57
4-2 現場への入場	37	7-5 その他の注意	58
4-3 荷卸し	38	7-6 緊急時の処置	59
4-4 荷卸し終了から退場	39	重大事故の結果	61
発生した事故例	40、41		

はじめに

この講習は、KURS発行の「生コンワーカーの実務」（研修用ビデオマニュアル・ガイドブック）の作業工程に沿った説明になっています。



2

はじめに

生コンワークの5つの工程ごとに、事故を起こさない安全な作業のための対策を説明します。



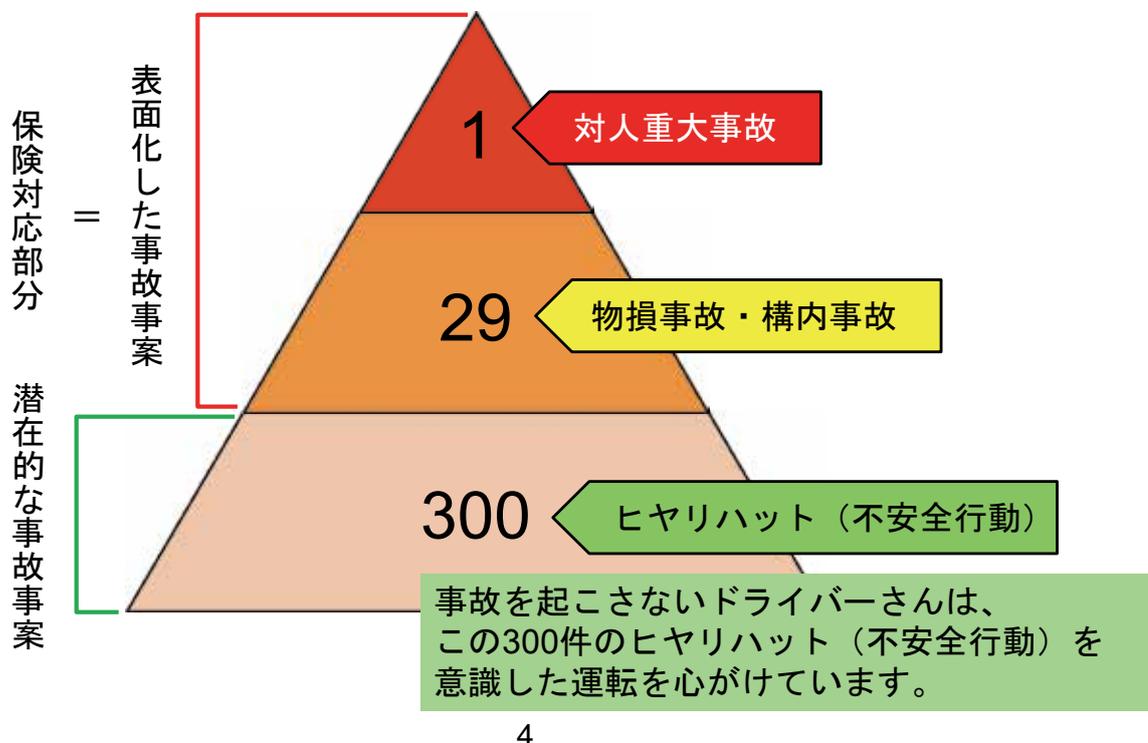
- 工程①：素材を練り混ぜて生コンを作る「製造」
- 工程②：つくった生コンを現場まで運ぶ「運搬」
- 工程③：現場に着いた生コンを納品する「荷降ろし」
- 工程④：ドラムやシュートについての生コンを洗う「洗浄」
- 工程⑤：納品報告と次の生コンの準備を行う「帰着後」

3

1.なぜ事故は起きるか

1-1 ハイน์リッヒの法則

『1の重大災害の下には、29の軽症事故があり、その下には300の無傷事故がある』



1.なぜ事故は起きるか

1-2 事故の発生原因(精神的・肉体的)

① 油断

「前方不注意」「安全不確認」などの要因を作る。

② 焦り（あせり）

「速度超過」「無謀運転」を引き起こす。

③ 過信

慣れによる、運転操作が「危険運転」を生み出す。

④ 疲れ

「漫然・脇見・居眠り運転」につながる。

2.工程①製造

ドライバーや誘導員は、製造工程に直接関わらないが、納品する生コンの品質を知るためにコンクリートの種類や「呼び方」などを理解しておきましょう。誤納の防止に役立ちます。

- 「生コンワーカーの実務」
(研修用ビデオマニュアル・ガイドブック) の工程①の
「第1章 セメントとコンクリートの種類」と
「第2章 生コンの品質を知る「呼び方」」を
良く読んでください。

6

3.工程②運搬

3-1 心がまえと注意事項

ドライバーや誘導員の皆さんは、商品である生コンクリートを納品する、生コン業界のアンカーとしての役割を担っています。

- 生コンの最終ランナー



高品質の生コンクリートを
安定供給する重要な仕事

7

■ 正しい生活と健康管理

事故は体調が悪いときや疲れているとき、精神状態が不安定なときに起こしやすくなります。プロドライバーとして精神面・健康面の自己管理を徹底しましょう。

- バランスのとれた食事、睡眠・休養を十分にとって、規則正しい生活をしましょう。
- 深酒に注意し、酒量管理に努めましょう

十分な睡眠と休息、
アルコール量のコントロール



睡眠と休息



飲酒を控える

■ 飲酒量

- プロドライバーとしての自覚を持ちましょう。
- 重大事故を起こした時の社会的影響を考えましょう。

アルコールの1単位

純アルコール約20グラムを含む種類



ビール	日本酒	ウイスキー	ワイン	チューハイ	焼酎
アルコール5% 500ml缶	15% 1合 180ml	43% ダブル1杯 60ml	12% 小グラス2杯 200ml	7% 350ml缶	25% コップ半分 100ml

- ・ 危険ドラッグは絶対に服用しない！
- ・ 眠くなるような薬（風邪薬など）の服用注意！

3-2 出社から始業点検まで

■ 服装、保護具

1. 服装は

会社指定の作業着を着用し、ボタン・チャックはきちんとして作業にかかりましょう。

2. 履物は

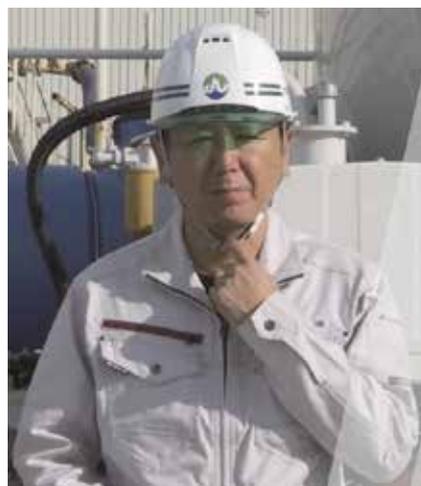
靴は安全靴を履きましょう。

* 長靴も安全長靴を履きましょう。車の中でもサンダルなどは禁止です。

清潔な作業着を正しくきちんと着用することにより、身も心も引き締まり気持ちよく安全に作業ができます。

3. 保護具は

会社指定のヘルメットを着用し、あごひもをきちんと締めましょう。



自分のためにあるのが保護具
正しく着けて無災害

■ 車両の点検整備要領

「安全・正確・迅速」に運搬するための大切な運行前点検です。
決められた手順で手早く行って下さい。

1 下回りのチェック

1. 車下にオイル漏れ、水漏れはないか。
2. 汚水受けからの漏れ、破損はないか。

2 エンジンルームの点検

1. リザーバタンクの水量は適当か。
2. エンジンオイルの量は適当か。
3. ファンベルトの張り具合は適当か。
4. ウィンドウォシャの液量は適当か。



12

3 運転席での確認

1. エンジンのかかり具合は良いか。
異音はないか。
2. 空気圧力の上がり具合が不良でないか。
3. サイドブレーキのひきしろは適当か。
4. ブレーキオイルのリザーバタンク内の液量は適当か。
5. ブレーキペダルの踏みしろは適当か。
6. ブレーキペダルからの排気音は正常か。
7. ウィンドウォッシャ液の噴射状態は良いか。
8. ワイパーの払拭(ふっしょく)状態は良いか。
9. 低速・加速の状態は適当か。
10. 排ガス浄化装置の点検。

4 車周りのからの点検

1. タイヤの接地部のたわみの状態により、空気圧が不足していないか調べる。
2. タイヤに亀裂や損傷がないか。
3. 異常摩耗がないか。
4. タイヤの溝の深さに不足がないか。
5. ディスクホイールの取り付け状態
6. 各ランプ類、方向指示器の点灯、点滅具合と汚れ、損傷がないか
7. バッテリー液量は適当か。
8. エアタンク内に凝水はないか。
9. 尿素タンクの残量、損傷、漏れ。
(車種による)



13

3.工程②運搬

5 ミキサー装置の点検

1. ドラム内のコンクリートの付着は定期的に点検しよう。
2. 駆動関係点検、ロックの確認。
 - レバー関係の動きはよいか。
 - ホッパーカバーの開閉の動きはよいか。
 - ドラムの回転は方向、動きはよいか。
 - ドラム逆転防止装置のロックは掛かるか。
 - シュートの動きとロックは掛かるか。
 - テッポウ（ミキサーガン）の動きはよいか。



※ ミキサー車の性能について

ミキサー車の性能検査は1回/3年実施することが規定されています。

ドラム内部にコンクリートが付着していたりブレードが異常摩耗したりしていると性能が維持されません。定期的に点検しましょう。

点検整備の行き届いたミキサー車で、品質の良い商品を納入しよう。

3.工程②運搬

3-3 生コンの積み込み

■ 積み込み時



- 積み込みに呼ばれたら、ホッパーカバーを開いてバッチャーに進入

ホッパーカバーが完全に開いた状態で、バッチャーに入る!

3.工程②運搬

- 伝票を受け取り、行き先や生コンの種類を確認する



16

3.工程②運搬

■ 出発前の確認



- ホッパーカーバーが閉じている事を確認
- ドラム逆転防止装置のロックの確認
- 再度、伝票を見て行き先を確認

17

発生した事故例

■ 補助ホッパーに生コン車のホッパーが接触し、破損した



原因

後方を確認しないまま、積込ホッパー下へ進入した。

要因

- 慣れていたため、後方を確認しなくても進入できて、停止位置もわかっている。
- 小型車が積み込み後、補助ホッパーを外していなかった。
- 小型車用の補助ホッパーが、あるとは思っていなかった。

対応策

- 慣れた車、慣れた場所でも、進入先（後方）を確認しながらバックする。
- 自車（10t車）の積み込みの合図があっても、進入先（後方）を確認する。

18

発生した事故例

■ 違う納入先（現場）へ、違う生コンを運んでしまった（誤納）



原因

他の車の伝票を、間違えて受け取った。

要因

- 伝票の運搬車番号と、自分の車の番号が、同じであることを確認していなかった。
- カウンターに複数の伝票が置いてあったが、深く考えず手前のものを受け取った。

対応策

- 出発前に、必ず自車番号と伝票の運搬車番号、行き先を確認する。
- 伝票が複数ある場合は、運搬車番号の確認や配車担当への確認を行う。

19

安全取組

■ 伝票の内容の把握

● 納入場所

● 運搬車番号
自分が乗る車の番号かを確認

● 出発時刻

● 納入容量

● 呼び方
生コンの種類など意味を理解して品質を知ろう

納入場所		〇〇住宅新築工事(KURS 新人研修用資料)							
運搬車番号		0011							
納入時刻		発	09時	00分					
		着	時	分					
納入容量		1.00 m ³							
呼び方		コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	セメントの種類による記号			
		普通	30	15	20	N			
セメント	粗骨材Ⅰ	粗骨材Ⅱ	粗骨材Ⅲ	粗骨材Ⅳ	粗骨材Ⅴ	粗骨材Ⅵ	粗骨材Ⅶ	粗骨材Ⅷ	粗骨材Ⅷ
350	—	175	593	256	—				

3.工程②運搬

3-4 安全な道路走行

■ 運転マインド、マナー・モラルの基本

1. 思いやりと譲り合いの気持ち

- ① 「交通ルール」は、道路を安全かつ円滑に利用するための最小限の決まりです。
- ② 常に「思いやり」と「相手に譲る」姿勢でハンドルを握るのがプロドライバーです。

2. おごりの意識を捨てる

- ① ミキサ車は運転席が高い位置にあるので、無意識のうちに他車や歩行者を見下ろして運転することがあります。
- ② 「強者は弱者を助ける」という立場にたった運転が大切です。

3. 油断をしない

- ① 「毎日この道を通ってるから」という油断は大敵です。
- ② わずかな緊張の緩みが取り返しの付かない事故を起こします。

4. 過信しない

運転に自信を持つことは大切です。しかし、「自分は運転がうまい」という過信は、安全運転の基本を見失い、事故の原因となります。

5. 「急ぎ」や「あせり」を抑える

- ① 「急ぎ」や「あせり」は危険な運転となりがちです。
- ② 「急ぎ」や「あせり」があると自分本位の運転となり他車への配慮を忘れることがあります。

※現場までの道路を間違えたり、交通渋滞で時間が掛りそうな場合は、あせらず・急がず、会社に連絡して報告後、落ち着いて行動しましょう。

6. 「カッカ」や「カリカリ」しない

- ① 「カッカ」や「カリカリ」は、的確な判断力を失うだけでなく、冷静な運転ができなくなります。
- ② 「絶対に事故を起こしてはダメ」と考え、冷静な運転を行うことが大切です。

見えない向こうに危険がひそむ。
スピード落として警戒・確認

■ 安全運転の基本

1. 安全速度は必ず守る

交通事故の大半はスピードの出しすぎが原因です。

スピードを出し過ぎると

- 車線からはみ出す
- ミキサー車は転倒しやすい
- 衝突を避けられないこととなります。

2. カーブの手前でスピードを落とす

カーブでの事故を防止するには

- カーブでは、対向車を予知して十分に速度を落とし、遠心力の作用を弱める
- カーブでは、センターラインをはみ出さないよう注意する



3. 交差点では必ず安全を確かめる

■ 交差点内の主な事故形態と事故原因

右折時の側面事故

1. 直進優先を無視した
2. 信号が変わると同時の無理な右折
3. 直進車のスピードを見誤っての右折

右・左折時の歩行者との衝突

1. 横断歩行中を無理して横切った
2. 横断歩道の手前で一時停止を怠った
3. 歩行者が死角に入って見えなかった

出会いがしらの衝突

1. 一時停止や徐行をしなかった
2. 思い込みによる運転（だろー運転）

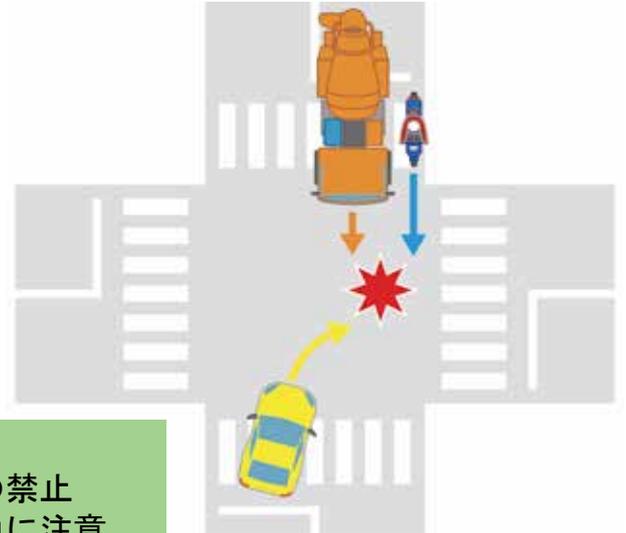
追突

1. 車間距離が足りなかった
2. スピードが出すぎていた
3. 大型車が前にいて信号が見えなかった
4. わき見をしていた

安全確認を心がけましょう

- ・ 一時停止と徐行の励行
- ・ 信号の変わり目に注意

- ・ 強引な通過の禁止
- ・ 内輪差・死角に注意



4. 一時停止で横断歩行者と自転車の安全を守る

- 横断歩行者や自転車がいる時は必ず一時停止して安全に横断させましょう。
- あたたかい思いやりの気持ちで守ってあげましょう。

ゆずりあい 誰でもできる 心がけ



5. 走行中の携帯電話は禁止



6. バック時は確実に安全を確認しましょう

ミキサー車の事故は、バック時の不注意が多い

- バックする時は、一旦停止して周囲の確認を
- ガードマンなどの他人の誘導を過信しないように
- ポンプ車につけるときは、ゆっくりと

■ エコドライブの励行

1. 環境配慮の運転を心がけましょう

ミキサー車は生コン輸送に欠かせないものですが、その一方で排出ガスによる大気汚染や地球温暖化などの環境問題の発生源ともなります。

一人ひとりが普段から「エコドライブ」を実施することが大切です。

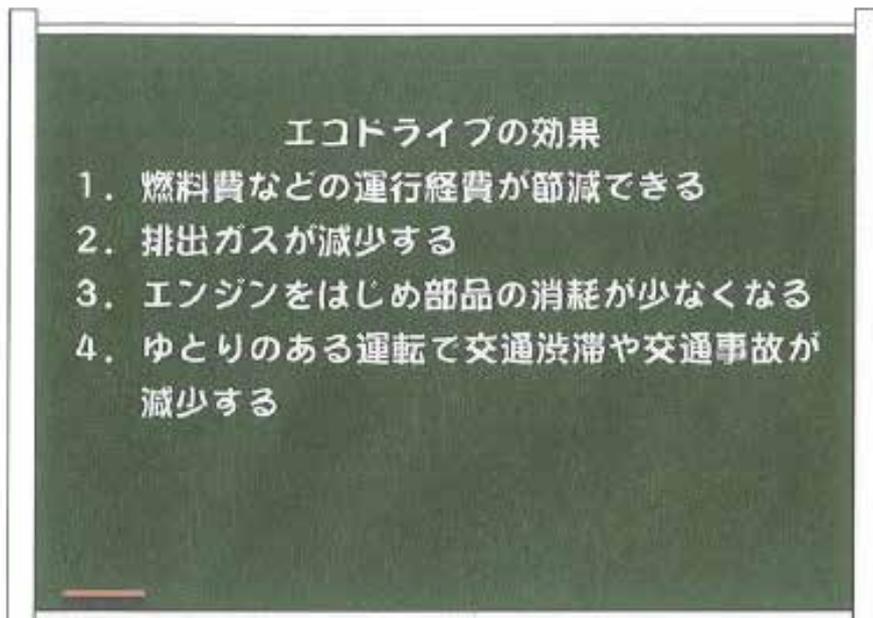
エコドライブのポイント

1. おだやかな発進と加速
2. シフトアップは早めの一段上のギアが常識
3. 定速走行の励行
4. エンジンブレーキの多用
5. 経済速度の厳守
6. 予知運転による停止・発進
(ストップアンドゴー) 回数の抑制
7. ムダな空ふかしの抑制
8. 必要最低限のアイドリング



2. エコドライブの効果

「エコドライブ」は、環境保全に必要なだけでなく、交通事故の防止や運行経費の節減などさまざまな効果をもたらします。



■ 事故防止のポイント

1.事故の起こる原因は、双方にある

交通事故には必ず原因があります。事故を起こした場合、その時の事故当事者の双方に不注意や車間距離が短すぎたなどの理由が考えられます。

2.常に意思を明確にして

他車の動きを注意することも大切ですが、自分の意思をはっきり知らせる事です。車線変更や右左折等では、意思を表明し相手が気づいていることを確認してから動作を開始しましょう

3.運転中は真剣勝負

事故は、危険を予知して運転に集中すれば必ず防ぐことができます。運転中は真剣勝負と思きましょう。

4.自分への甘さが事故につながる

「事故は他人のせいだ」「交通規則を守っていても運転できる訳がない」「交通事故を起こした場合の被害や犠牲をわかっていない」— 自分の運転技術への過信や他人への配慮のなさが事故を引き起こします。

5.待つことに耐えられるようになろう

他車の運転が気になって、いら立って運転すれば事故につながります。それよりも1秒待つ余裕をもって運転すれば事故は防げます。事故のきっかけを作らないことが大切です。

3.工程②運搬

6.決められた順路を走ろう

出発する前に順路を確認しておきましょう。近道を通ったり、納入先を探したりしながら運転することは、事故の原因となります。

7.常に6台の車を意識して運転

自分、左右の側方、後車、前車、そして前車の前方を注意しましょう。周囲に異常がないか、常に気配りが大切です。

8.青色信号は、通行可の合図でしかない

信号が青になったのは、通行を許可しただけで、安全を保証したものではありません。危険の有無を確認してから発進しましょう。

9.子どもの後から子どもが飛び出す

大きい子どもが道路を横切ったら、すぐ後から小さい子どもが続いて横切ることがあります。危険を予測し油断しないことが大切です。

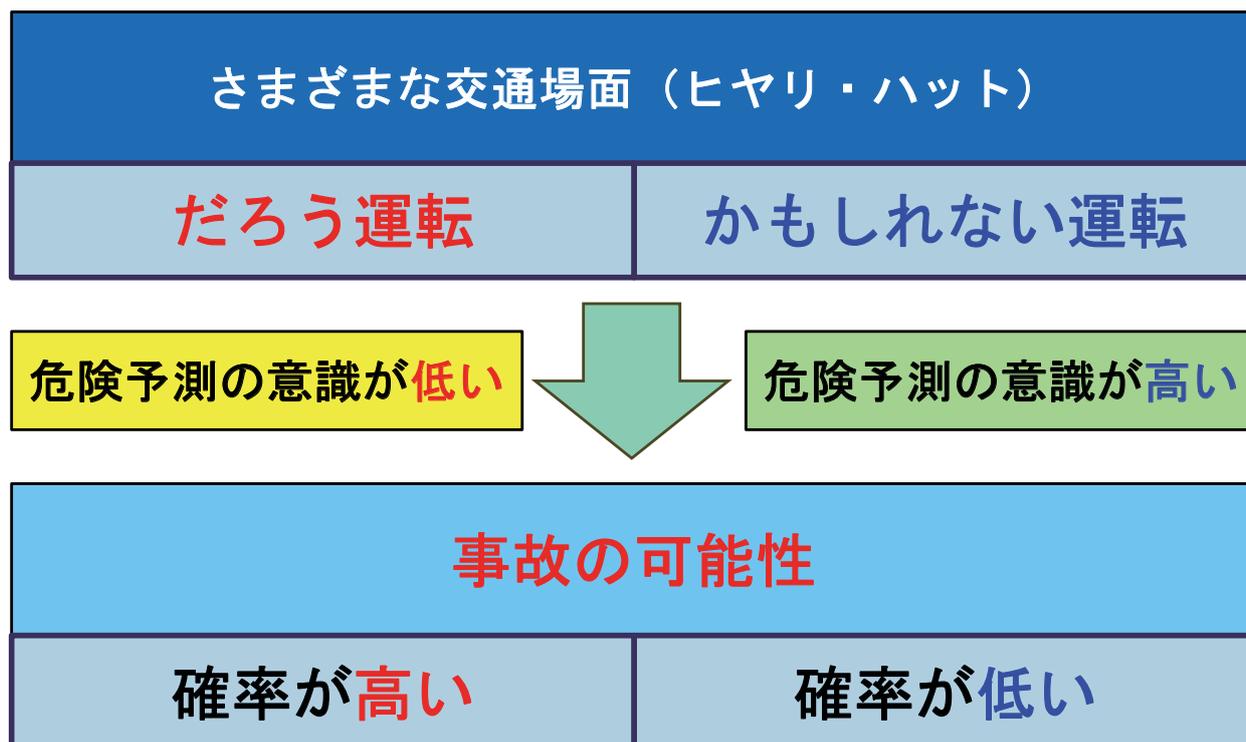
10.老人が道路を横断する

老人は、視力、判断力が落ちています。歩く速度も遅いものです。老人が横断を始めたら、停止して待ちましょう。

30

3.工程②運搬

■ 事故防止の考え方



31

安全取組

■ 指差呼称とは？

「ボタン押し」実験

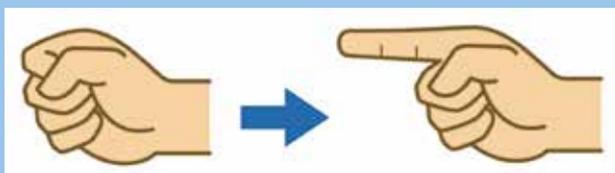
指差呼称の効果実験より（鉄道労働科学研究所）

- ① 何もしないで、ボタンを押す
- ② 指差しをする（ボタンを指し示す）
- ③ 呼称をする（声に出して確認）
- ④ **指差呼称をする**



指差呼称

運転行動の要所要所（危険のポイント、誤操作のポイント）で、自分の確認すべきことを「〇〇ヨシ!」と、対象を見つめ、しっかり指差して、はっきりした声で呼称して確認することをいいます。



親指を中指にかけた縦拳の形から、人差し指をまっすぐに突き出すと、しまった形になります。

32

安全取組

■ 指差呼称の効果

「ボタン押し」実験

指差呼称の効果実験より（鉄道労働科学研究所）

結果は

- 押し間違いの発生率が6分の1以下に！
- 押し間違いを300件のヒヤリ・ハットに例えるなら50件に減少し、ハインリッヒの法則に基づけば、軽症事故、重大事故の発生率がゼロになります。



33

安全取組

■ 指差呼称のエラー防止効果

何故エラーを防げるのか

- ① 注意の方向づけ
操作・作業や確認の対象に注意を能動的に向けることができる。
- ② 多重確認の効果
目だけの確認よりも、耳・口・腕と指の筋肉を動かすことにより、感覚を鋭くし、精度を上げることができる。
- ③ 脳の覚醒
口や腕などの運動は、脳を覚醒させる働きがある。眠気やぼんやりした頭をすっきりさせることができる。
- ④ 焦燥反応の防止（習慣的動作のエラー防止）
指差呼称による一連の動作にタイムラグを生じさせることで、焦りや慣れによるエラーを防止することができる。



34

安全取組

交通危険予知活動の効用

交通危険予知活動は、運転場面における危険を危険と気づく「感受性」を鋭くし、危険に対する情報を共有し合い、さらにそれをミーティングで解決していく中で「問題解決能力」を向上するものです。指差呼称を行うことにより「集中力」を高め、チームワークで実践への「ヤル気」を高めます。



運転場面の要所要所で、心を込めて指差呼称をして安全を確認します。この安全先取りの危険予知活動が事故防止に役立ちます。

感受性を鋭くする

集中力を高める

問題解決能力を向上させる

ヤル気を高める

交通安全職場風土づくりをめざす

35

4.工程③荷卸し

4-1 現場での注意事項

最近では、情報漏洩（ろうえい）に関する注意事項なども増えています。

特別な用事がないのに現場をウロウロしたり、他の作業現場をのぞいたりしないようにしましょう。



36

4.工程③荷卸し

4-2 現場への入場



- ガードマンの指示
- 荷卸し場所までの経路の確認
- 到着時間の記入、連絡
- 現場内は最徐行

37

4-3 荷卸し



- 誘導の指示を受けるが、必ず自分でも確認
- 輪止めの装着
- 安全帯のフックを掛けて荷卸し

38

4-4 荷卸し終了から退場



- 受領書をもらう
- 荷卸し完了時間の記入、連絡
- 現場内は最徐行

39

発生した事故例

- 誘導員が、生コン車をバック誘導していたら、ポンプ車とシュートにはさまれて負傷した



原因

バックミラーに映らない位置（死角）で誘導を行った。

要因

- 誘導員が不慣れで、死角に入ってしまった。
- 誘導員が、ホッパーと生コン車の間の距離感をつかめていなかった。
- 誘導員が、「止まれ」の合図をドライバーに的確に伝えられなかった。
- ドライバーは、ホッパーの少し手前で、一旦停止をしていなかった。

対応策

- 死角に入らない（自身の左側に生コン車が停車するよう誘導を行う）。
- ホイッスルと身振り手振りの合図「動く」「ゆっくり動く」「止まる」を、ミーティング等で共有・確認しておく。

40

発生した事故例

- 現場から退場する際に、開閉ゲートにホッパーカバーが接触し、破損した



原因

ホッパーカバーが完全に閉じていない状態で、ゲートに進出した。

要因

- 洗い場でホッパーカバー全開にし、洗浄後、発進しながら開閉ボタンを押した。
- ホッパーカバーが閉じている事を、確認していなかった。

対応策

- ホッパーカバーの開閉は、停車状態で行う。
- ホッパーカバーが完全に閉じているのを確認してから発進する。

41

5.工程④洗淨

5-1 現場での洗淨



- 洗い場の確認
- 輪止めの装着
- 安全帯のフックを掛けて洗淨

42

5.工程④洗淨

洗淨が終わったら



- シュートのロック
- 現場退場の連絡
- ホッパーカバーが完全に閉じているのを確認
- 徐行して退場

43

5-2 残水処理での洗淨



- 洗車場の進入位置の確認（処理ごとに位置が違う場合）
- 輪止めの装着
- 「現場での洗淨」と同様に安全帯のフックを掛けて洗淨

44

発生した事故例

- 現場の洗い場でシュートとスカートを洗っているとき、体のバランスをくずし、転落してケガをした



原因

安全帯のフックを、取付金具に掛けていなかった。

要因

- 下段ステップに降りたので、安全帯のフックを掛けなくてもよいと思った。
- 次の車が待っていたので、焦っていた。
- 濡れたステップで滑り、足を踏み外した。

対応策

- 安全帯のフックを必ず中段の取付金具に掛ける。
- 焦らず、ポイントを押さえて素早く洗淨する。

45

発生した事故例

- 洗い場の駐車スペースにバックで進入した際、リアデフがタイヤ止めに当たって損傷した



原因

後方を確認しないでバックした。

要因

- 感覚で止める位置を想定し、後方を見ないでバックした。
- 「タイヤ止め」があると思っていなかった。

対応策

- 必ず後方を確認しながら、タイヤ止め位置までバックする。
- 生コン車を止める際は、タイヤ止めや、区分けラインの有無などを必ず確認してからバックする。

46

6.工程⑤帰着後

6-1 残水処理とうがい



- うがいができる洗車場（駐車位置）、うがい回数の確認
- 輪止めの装着、安全帯のフックを掛けて洗浄

47

6-2 最終の洗浄と洗車



- 輪止めの装着、安全帯のフックを掛けて洗浄
- フェンダーの上を歩く際は、デッキの手すりに安全帯のフック掛ける

車体左側のデッキ(手すりがない場合)には乗らないようにする

48

発生した事故例

- プラントでの洗浄時、中段ステップを踏み外し、手すりをつかみ損ねて転落して、後頭部を強打して死亡した



原因

安全帯のフックをどこにも掛けてなかった。

要因

- 現場ではない事もあり、安全帯のフックを掛けていなかった。
- ヘルメットのあごひもを、キチンと締めていなかった。

対応策

- 洗浄時は、安全帯のフックを中段、上段の取付金具に掛け替えながら上がる。
- ヘルメットのあごひもは、あご下に指1本入るぐらいまで締め込む。

49

発生した事故例

- プラントの洗い場で、左側スクープを洗っているとき、バランスをくずして転落して大ケガをした



原因

安全帯のフックをどこにも掛けてなかった。

要因

- 現場ではない事もあり、安全帯のフックを掛けていなかった。
- 左側のステップから洗うのが面倒で、右側からの洗浄で済ませたかった。
- 無理な姿勢で洗おうとした。

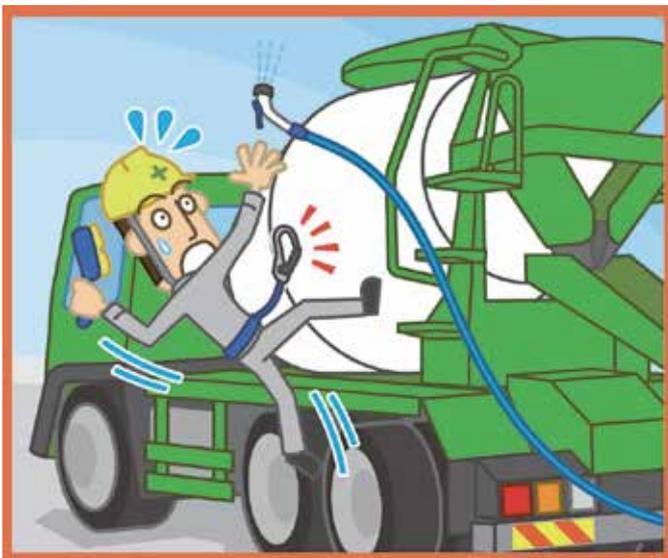
対応策

- 安全帯のフックを、必ず上段の取付金具に掛ける。
- 手が届きにくいところは、左側ステップに上がって洗う。

50

発生した事故例

- 手すりのない助手席（左）側のフェンダーに乗って、ドラムを洗っているとき、転倒してケガをした



原因

安全帯のフックをどこにも掛けてなかった。

要因

- 手すりのない助手席（左）側のフェンダーに乗って、ドラムを洗っていた。
- フェンダーに乗るときに、安全帯のフックを掛ける必要がないと思っていた。

対応策

- フェンダーに乗ってドラムを洗うときは、運転席（右）側のフェンダーに乗り、必ず手すりに安全帯のフックを掛けて行う。

51

6-3 終業作業



- 終業点検、駐車ブレーキ、輪止めの装着
- 運転席周りも原状復帰が原則
(自分専用の生コン車でない場合)
- 日報、タコグラフ、キーなど記入モレや返却忘れがないように

52

発生した事故例

- 終業後、車を駐車してタコグラフを操作中、車がゆっくりバックしてフェンスに衝突し、損傷した



原因

サイドブレーキを掛けず、フットブレーキの踏み込みが不十分だったため、傾斜によって車が後方へ動いた。

要因

- 駐車位置のズレを指摘され、再駐車した。
- 駐車後焦っていたため、サイドブレーキと輪止め装着を忘れたまま、タコグラフの操作を行った。
- 駐車スペースに傾斜があると思っていなかった。

対応策

- 停車後はサイドブレーキを掛け、必ず輪止めを前タイヤに装着する。
- 停車を確認してから、タコグラフや日報などの処理を行う。

53

7.交通事故発生時の現場処理

乗務員は、常に安全運転を励行し、交通事故の根絶に心がけなければなりません。万一、人身事故または対物車両事故が起きたとき、その内容の程度を問わず最寄りの警察に届け出なければなりません。これは道路交通法第72条に規定されている乗務員の義務ですが、同時に後々の保険の取り扱いのためにも必要です。

次の措置方法を参考にし、落ち着いて正しい処置をとりましょう。

7-1 負傷者の救護

負傷者がいる場合、負傷の程度の観察と適切な救護をし、救急車を呼びます。

負傷者の所持品があるときは、これを大切に保管しておきましょう。

54

7.交通事故発生時の現場処理

7-2 二次災害の防止

事故車両を放置しておく、他の車が追突する等の二次災害のおそれがあります。

車両を安全な場所に移動させ、エンジンを切り、後方に表示板を置きます。

荷を積んでいるときは、エンジンは停止できません。



乗務員は警察の指示に従い、みだりに現場を離れない。

目撃者がいる場合は、その人の氏名、連絡先を聞いておきます。

55

7-3 警察への報告

警察官に次の事項について報告します。

- 事故の発生場所と時刻
- 負傷者の有無と程度
- 事故現場でとった処置

※小さな事故でも必ず連絡するようにしましょう。



7-4 会社への連絡

会社に次の事項を報告し、管理者の指示を受けます。

1. 乗務員（自分）の氏名
2. 事故車両の車両番号
3. いつ（時間）
4. どこで（場所）
5. 事故の内容（人身、車両、物件）
6. 相手先の住所、氏名、車両番号
7. 双方の被害損傷程度
8. 事故の原因
9. 車は動かせるか、救援活動が必要か
10. 荷は積んでいるか



7-5 その他の注意

- 事故現場において、乗務員が事故の相手方と示談に関する交渉をしてはいけません。
- 荷を積んでいる場合、許される限りすみやかに処置をとり、生コンの劣化を防止します。

※事故処理が終わったら、所定の事故報告書に記録し、管理者に提出します。



車間距離、
あなたのゆとりの
バロメーター

7-6 緊急時の処置

1. 踏切でのエンスト等による停止時

- 警報機のある踏切では、非常ボタンを押します。
- 非常ボタンのない踏切では、発煙筒を使って合図します。
- 電話、その他の方法で最寄り駅へ連絡します。

2. 高速道路での故障等による停止時

- 車を路肩に寄せて止めます。
- 発煙筒を使用して後続車に合図し、後方に停止表示器材を置きます。
- 非常電話、又は携帯電話で車を止めた場所（非常電話の場合は、電話番号）、故障の内容、車種、氏名等を連絡します。
- 救援を待つ間は、安全な場所に避難します。



3. 大地震発生時

1. 運転中に緊急地震速報を聞いたら
 - 周りに注意して、急ブレーキを踏まず減速し、ハザードランプを付けて道路端や駐車場に停車しましょう。
2. 運転中に大地震が発生したら
 - ハンドルがとられないように、しっかりと握り、車を道路の左側に寄せて停車します。
 - 停車したら、ラジオなどで地震情報を聞き、指示があればそれに従います。
 - 荷があれば、ドラムを回し、現場に行けないと判断した場合は、工場に連絡し支援を仰ぐようにしましょう。
 - 車をおいて避難するときは、キーはつけたまま、ドアのロックはしないようにします。

重大事故の結果

会社の信用低下・・・場合によっては取引停止
高額な賠償金・・・自動車保険料アップ

あなた自身も・・・

運転を任せられないというレッテルをはられる
かもしれません・・・。

まあいいや！めんどくさい！これくらいなら！

は、やめましょう！